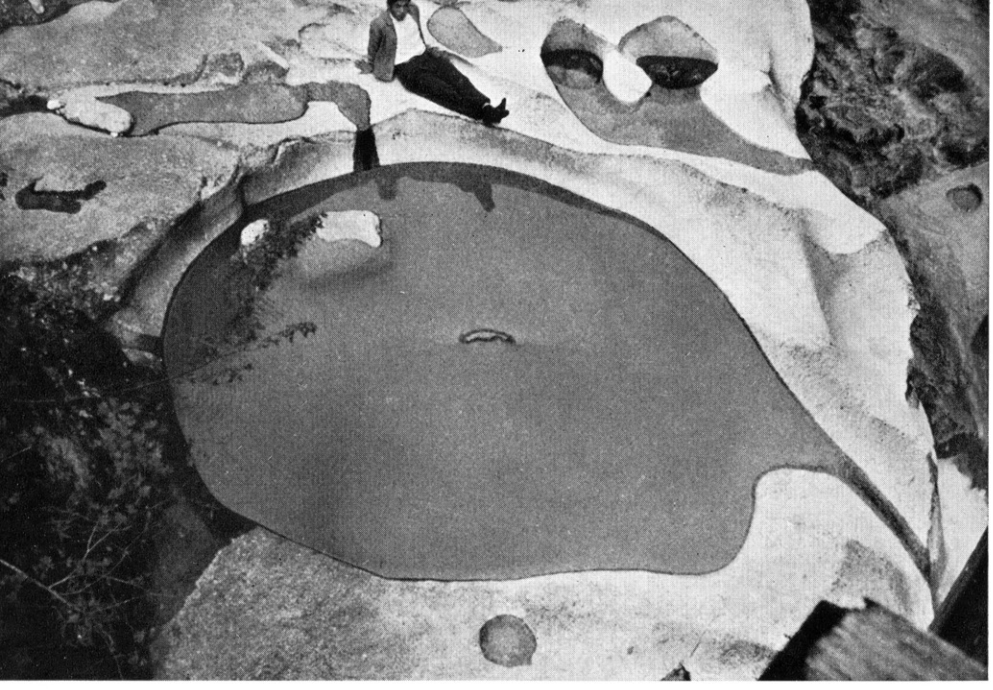

所内 第4回 写真コンクール 入選作「水 蝕 模 様」
地質部 編図課 上 村 不 二 雄

水 蝕 模 様

「点滴岩をうがつ」など 古来から水が堅い岩面をうがつことわざがいい伝えられている. なるほど谷間などにゆくと 河床に露出した岩盤にみごとなアブストラクトばりの彫刻がみられることが多く 峡谷の美しさは 水蝕のもの珍しさが大きな要素になっている.
しかし はたして水だけでそんなに簡単に岩をえぐるものだろうか. 実は古人にはお気の毒ながら 水に浮遊したり 転がったりして流されてきた砂や礫がぶつかって 長い間に岩の表面をけずりとってゆく といった見方の方が正しいようである.

写真は 花崗岩地帯の谷川でよく見掛けるいわゆる 甌穴 (Pot-hole) の一種である. 滝つぼや急流などのように うずまき状の水流がある所へ 砂礫が巻き込まれると 砂礫はぐるぐる回りながら岩盤をまさつし 遂には丸い穴が生ずる.
写真のものは 半分できかかり程度のものに水がたまったもので 大きなものの真中が水面上に顔を出しているのは 回転した砂礫がまわりの方から 下方へうがって行ったことを示している.

甌穴の中には回転した石がきれいに丸味を帯びたまま残っていることも多いが ここの場合は残念ながら1つもみられなかった. (右上の小さい甌穴内の石は あとから転り込んだものである) 浅いため 洪水の時流されたのか 誰か拾ってしまったのであろうか.

平山健課長

平山課長 インドネシヤへ

地質部平山健課長は コロンボ計画による技術援助のため インドネシヤ国の地質鉱床調査に 1ヵ年の予定で去る6月12日東京羽田からインドネシヤ国のバンドン地質調査所へ出発した. なお帰国は34年6月の予定である.

◦地質調査所月報 (第9巻 第4号)

報 文

工業用水調査グループ: 大阪市工業用地下水源調査報告
— 淀川水系地域調査第2報 —

渡辺 和衛: 栃木県足尾・茨城県日立地区における断層裂罅と水理について

種村 光郎・堀内 恵彦: 山形県大峠粘土について

上野 三義・塚脇 裕次・高橋 博・岩生 周一: 兵庫県氷上郡・神崎郡下の蠟石鉱床 (明礬石鉱床を含む) 調査報告

早川 正巳・松田 武雄・杉山 友紀・須田 芳朗: North American Geophysical Co. 製 UW-2R 型 海底重力計について および本重力計による有明海北部海底重力探査報告

資 料

極東地域の白堊系の基礎的問題について
(その2)

訂正 地質ニュース No. 45 20P 地質調査所月報 (第9巻 第3号) の概報の項にある 尾原信彦: 岐阜県木曽川水系益田川……と 島田忠夫・矢崎清貫: 北海道網走市付近……は「報 文」の誤りにつき訂正します

地質ニュース 第46号 昭和33年6月発行 編集と発行 工業技術院 地質調査所 印刷 東都工芸印刷株式会社